キャラクター名

トド松/おやすみマリア

プレイヤー名

ポジション	オートマトン	**享年**	
メインクラス	ロマネスク	**暗示**	罪人
サブクラス	ゴシック	**寵愛点**	14

初期配置	煉獄
最大行動値	10

能力値	クラス	修正	合計
武装	0	0	0
変異	1	1	2
改造	3	0	3

記憶のカケラ	内容
覆う影	あなたの日常は、この影に覆われた。平和で幸福な日常も、大切な友達も兄弟も、全てこの影に覆われてのちゃくちゃにされてしまった。奪われたことに対して強い憎しみを感じるが、それと同時になぜか強い幾揺も覚えるのだ。
死去	大切な人が死んでしまった。身体をゆすろうと、名前を呼ぼうと、隣で泣き叫ぼうと、その人は何も答えない。ずたずたにされた遺体の隣で、あなたはただ哀しみにくれていた。
兄弟	自分たちはこの施設でいつも一緒にアームをしたり、本を読んだりして毎日を過ごしていたことを思い出す。確か、みんなそれぞれ何かの理由があってこの施設に集められたはずだった。しかし、施設にきてからも兄弟として自分たちは中のいい兄弟であった。
血の宴	兄弟が何者かに襲われた。その用かは、突然現れて、大切な兄弟をバラバラにしていったのだ。君は、目の前で大切な兄弟を失ったのだ。…そして今、目の前に広がる状況は過去の記憶にとても良く似ている。
黒い霧	同時の日常をすごしていた君は、突然ただ気味を感じた。地面に広がる一定間隔で黒ったのだ。黒紙に現れたのは黒い黒いもやもやだ。それは、アンテットの色を帯びすぎ、身についたまだ真白な黒いもやった。みこは白が見えているのは黒、血塗れのは、君は直感的にこれをヤバと感知していた。
兄弟の手	彼は自分を助けてくれた研究員にと思い出す。大好きで、眩るのは唯一日は同時もう行動を取ってくれた。そんな彼は、君にとって兄弟であり、この施設にきてからも永遠でありこの施設にきてからも永遠でありこの施設にきてからも永遠でありこの